町長選にはタッチせず

自民党本別支部臨時大会

自由民主党本別支部（井出利一郎支部長）では四日午後一時三十分から津村会館に党員五十余名があつまつて臨時大会をひらきました。

はじめに高橋邦雄副幹事長の司会によつて井出支部長のあいさつがあり、議長団に津村八重三、江見幸作木下トラヨの三氏が推し、議長団を代表して、津村氏のあいさつがあつて議事に入りました。井出支部長から党勢、経過報告があり、このなかで四月の定期大会で要望のあつた北恵工場の開発協業について会社側と交渉した結果、工場は日下非空路営なので合理化を考えているが旋盤工や焙焙工などの技術者もおり設備もあるので農業員や焼却炉の製造などは考えられるが、外注の精整については非能でなければ難しいーとのことで、安久津清人政調会長からは、党費年額一千円を二カ年は上納めている正式党員が明年から自民党総総選挙に参加することになるなどの説明がありました。

つづいて四月十七日の定期大会で農業委員選挙後にもちこしとなつていた役員改選にうつつたところで、井出支部長から『四十五月五月に支部長になつて七年有半、この間、農業大学校の実現、自衛隊の誘致には才五部隊から北恵総務部をへて当時の江崎防衛庁長官まで陳情および、高速道路では浜頃町も調査した、このたび一身上の都合で退任したい』と、ひと足先に退任のあいさつをみこないついで岡崎支部顧問から『お願いがある、井出さんには私がバトンタッチした、政治というものを信頼していくべきで、できないものを実現させるのが政治の力でできる場合もある、農業なども見直して考えて頂きたい』との発言があつてから、役員改選の選考委員は議長団に一任となりました。

別室で議長団が協議して指名した選考委員は金野四郎、高橋邦雄、岡崎進、千葉三郎、佐藤一夫、荒宗義福山青象の七氏で、これをた別室で役員選考の結果

支部長　野崎　武
副支部長　安久津清人
同　野田永造
同　野田勝吉
同　石上十一
同　門田田三男
幹事長　佐藤純一

の各氏の推薦を発表して満場の拍手でこれを決定しました。

このあと、新役員を代表して野崎支部長から『党改革のためには政策を解消して大同団結をはかるべきで』そのために支部としては町内の選挙には絶対決定はしないことにしたい』とのあいさつがあり議長団の退任あいさつがあつて午後三時四十五分に閉会して、懇親会に移りましたが、幹事長以下の役員は三役に一任としました。

千春のひとりうた

九月五日号の「平凡パンチ」には富沢一誠氏が「北海道での人気はものすごいとは聞いてはいたがまさか、あれほどすごましいとは思つてもいなかつた札幌厚生年金大ホールで行われたコンサートをこの目でしかと見て、ぼくは思わず「なんだこれは！」とつぶやいてしまつた。というのは、開明が暗転して幕があくやいなや客席の女の子がどよめき、キャー、キャー、ピー、ピーと絶叫をあげはじめたからだ。客席のどよめきは、シンガーの人気を雄弁に表すものとして知られているが、そのどよめきはまぎれもなくスターのそれだつた。

まつたく、ぼくの後ろの席の女の子なんて、今にもぼくの頭を踏みつけてステージへ向かうほどの熱気を帯びていた。

そんななかで赤一郎、千春はギター一本で弾き語りを続けていたが、あるときはしつとり、またあるときは笑わせ、そのたびに客席からは「千春！」というかけ声が飛んでいた。

そのかけ声のボルテージが一段と高くなつたのは、オ二部、パックもつけて、きれいな衣装に身をまとい千春がステージに現れたときだ。ハンドマイクを持ち千春がうたうと、もうそこにはふつうのフォーク・コンサートのふんい気はなかつた。

特にラストおよびアンコールでは女の子が総立ちになり、われ先にとステージに殺到していく。「千春！」という叫声を越えた間を発し、ある者は泣き叫び、ある者はジャンプしてステージに上がろうとしているその光景を見ていて、ぼくはあたかも眉ひろみや西城秀樹のショーを見ているような錯覚におちいつてしまつた。

デビューして半年もたつていない千春が、二千三百名の大聴衆を集めて、すばらしいばかりのコンサートを行つた事実はまぎれもない。しかし、この人気の秘密はいつたい、どこにあるのだろうか？ふと、考え込まずにはいられない。

コンサートが終つた当日の深夜「アタック・ヤング」を訪ねてみると、放送局の入口には女の子がたむろしていた。全くすごましいスターぶりだ。

「千春はわたしたちのいいお兄さん。身近にいて、いい歌、いい放送を聞かせてくれます」

いみじくも、ある女の子が千春の魅力を語つてくれたが、意外と人気の本質はそのへんにあるのかも知れない。とにかく、松山千春は北海道ではだれにも負けないスーパー・スターだノ北海道に松山千春あり、と報告しておこう』

読者の室

あの道端での放立ちコンサートが昨日のことのように目を閉じると浮かんできます。

千春クンを空港までお見送りに行くことができ本当に幸せでした。

千春クンにとつて、大きな不幸（竹田ディレクターのこと）が訪れ、そして、千春クンは前以上に大きくなつたでしよう、今度あう時は、もつと大きくなつている千春クンにあえることを今から楽しみにしています。

王選手が世界の王になり、今度は、千春クンが世界の千春になるばんです、体に気をつけ頑張つて下さいネ！

千春クンのお父さんは一人で新聞を作つているそうで：私はもうビックリ！

私はA女子高校の新聞局の部長をしているものですが：新聞を作るということは全く大変なことなんですよネエー。

今日、我ら新聞局でアンケートを取つたのですが、歌する人のランキングは松山千春が一番いた人がなんと三十二人でオ一位なのです。そして、そして松山明と書いた人が五人もいたのです。

そして、そして好きなタイプ番組は、全体約千人のうち半数は、アタック・ヤングとサンデージャンボスペシャルの千春のひとりうたなのです。

私はあらためて、松山千春クンの人気に驚きました。

これからも、よい歌、心にぐつとくる歌、考えさせられる歌：BTC、どんどん歌い続けて下さい。

（函館のS・Kさん）

★

釧路のコンサートを見て帰つて来た所です、ただ興奮して今日はねむれそうもありません、とにかくすばらしいステージでした。

ラジオなんかで聞いている時の千春くんと、また別のちがつた味のする千春くんの一面が見えたような気がします。

私は千春くんを見たのは二時のワイドショー、釧路のスーパー松山千春スター松山千春」と題して、つぎの一文を掲載しています。

『北海道での人気はものすごいとは聞いてはいたがまさか、あれほどすごましいとは思つてもいなかつた札幌厚生年金大ホールで行われたコンサートをこの目でしかと見て、ぼくは思わず「なんだこれは！」とつぶやいてしまつた。というのは、開明が暗転して幕があくやいなや客席の女の子がどよめき、キャー、キャー、ピー、ピーと絶叫をあげはじめたからだ。客席のどよめきは、シンガーの人気を雄弁に表すものとして知られているが、そのどよめきはまぎれもなくスターのそれだつた。

まつたく、ぼくの後ろの席の女の子なんて、今にもぼくの頭を踏みつけてステージへ向かうほどの熱気を帯びていた。

そんななかで赤一郎、千春はギター一本で弾き語りを続けていたが、あるときはしつとり、またあるときは笑わせ、そのたびに客席からは「千春！」というかけ声が飛んでいた。

そのかけ声のボルテージが一段と高くなつたのは、オ二部、パックもつけて、きれいな衣装に身をまとい千春がステージに現れたときだ。ハンドマイクを持ち千春がうたうと、もうそこにはふつうのフォーク・コンサートのふんい気はなかつた。

特にラストおよびアンコールでは女の子が総立ちになり、われ先にとステージに殺到していく。「千春！」という叫声を越えた間を発し、ある者は泣き叫び、ある者はジャンプしてステージに上がろうとしているその光景を見ていて、ぼくはあたかも眉ひろみや西城秀樹のショーを見ているような錯覚におちいつてしまつた。

デビューして半年もたつていない千春が、二千三百名の大聴衆を集めて、すばらしいばかりのコンサートを行つた事実はまぎれもない。しかし、この人気の秘密はいつたい、どこにあるのだろうか？ふと、考え込まずにはいられない。

コンサートが終つた当日の深夜「アタック・ヤング」を訪ねてみると、放送局の入口には女の子がたむろしていた。全くすごましいスターぶりだ。

「千春はわたしたちのいいお兄さん。身近にいて、いい歌、いい放送を聞かせてくれます」

いみじくも、ある女の子が千春の魅力を語つてくれたが、意外と人気の本質はそのへんにあるのかも知れない。とにかく、松山千春は北海道ではだれにも負けないスーパー・スターだノ北海道に松山千春あり、と報告しておこう』

のチューリップフェア、帯広でのオン・ジャン公開生放送などでした、そんなにんなでいつのまにか千春くんの大ファンになつていたんです、本当に千春くんのステージとつてもよかつたです、みんな静かに聞いていたし、手拍子はきちんとあつていたし、言うことなしでした。

私すごく最後の方、アンコールがかかつた時や竹田さんの話が出て来た時はすごく感動しました、話氷関

いている時も涙が出て来ちゃつたし、千春が泣きながら歌つたときもいつしよに泣いてしまいました。

千春つて本当に不思議な力をもつた人だなあつてつくづく思いました、人を惹せつけるというか、千春自身のの心の中にみんなが吸いこまれてゆくような、とにかくすばらしいステージでした。

また釧路でコンサートを是非やつて下さい。

（白樺のH・Iさん）

室の千春

下の写真は昨年の成人式に参加したときのもので、もちろんハオリ、ハカマは母がよそから借りあつめてくれたところ、友達もわれもわれもとマネをして、足袋所教育委員会としは黒子の和服参加ははじめてということでした。

☆

生年月日について週刊紙などはマチマチに書いていますが、昭和三十年十二月十六日です。

☆

この前のナン・ジャンで

ゞ重大発表ゞ云々などとオーバーな発言をしたので、サテはゞ婚約ゞではないかと沢山の方々からお電話を頂きましたが、いつも申しあげているとおり、まだその中意性もないので、三十才まではそういうことではありません。

☆

北海道だけの聞こえないで全国放送にも出てほしいということで、オールナイト・ニッポンにもゲストとして出演することになつたもので、あの時点で明確でない点もあつたので失礼しました。

☆

千春は段々遠い存在になつていくーとの知便りを頂きますが、こちらはいつまでも足袋のローカル歌手でなんの変りもありません、ただ十月からは日曜日のサン・ジャン、火曜日のアタック・ヤンに水曜日のオールナイトと、ラジオを通じてみなさんと接する時間がふえることになるのですが

☆

各地の方々からファン・クラブをつくつてほしい、すでにファン・クラブをつくつたから認めてほしいーとのことですがまことに有難いことで、各地でご自由になさつて頂きたいので、こちらはスターでもなんでもないのでおこがましいことはいたしません、ただ千春の歌をラジオでレコードでコンサートで聞いて下さる数多くの方々のために歌で頑張ります。

室の主

千春

なさんからのお便りに一々ご返事もできず、お電話にも出られなくなりましたので、当方でローカル新聞を発行しているので、その一部を割いて「千春特集号」として、千春との交流をはかつてきました。

その後この「特集号」の発送料がふえてきまして経費がかさむ状態となりましたので、購読ご希望の方だけに送らせて頂くことにいたしました。

料金は郵送料をふくめて一カ月百円、一カ年前納の場合は一千円といたしておりますが、すでご送金の方はよろしいのですが、次号からはお便りのさいにご送金頂いた方だけにお送りいたしますので、その点よろしくお願いいたします。